

大原中学校だより 令和5年2月22日 第16号 校長 柴田美由紀

【大原中学校の教育目標】
「自ら考え、自ら判断し、自ら行動しようとする子どもの育成」

誠実



2年生修学旅行スローガン
『会話～築こう信頼の橋～』

2年生は2月8日(水)～10日(金)の日程で、京都・奈良への修学旅行に行ってきました。「旅行」は「**三連の旅**」とも言われ、**事前の旅 本番の旅 事後の旅**からなり、

極めて目的的性格があります。事前の旅とは、憧れと期待を持つこと、本番の旅とは、旅に専念すること、事後の旅とは、追憶と生活の活性化のことです。この旅行を通して、2年生は、時間や規律を守り、学習を深め、よりよい人間関係を築くこともできており、まさに、修学旅行スローガン、『会話～築こう信頼の橋～』を達成することができたように思います。

1日目は、新幹線で新大阪に到着後、向かったのは天平文化の象徴といってもよい東大寺です。奈良時代の743年に聖武天皇の発願により創建されました。「盧舎那仏」という大仏が安置されている世界最大の木造建築である大仏殿の迫力に圧倒され、当時の技術力の高さに大いに感銘を受けました。



2日目は、京都市内の班別研修でした。班ごとにミニバンタクシーに乗り、事前に計画を立て学習を行った見学地へ向かうといった研修でした。京都の歴史や文化に触れながらの学習は、子どもたちに今と古の時をつなぎ、同時に、班の仲間との絆をつなぐ貴重な体験となりました。全班が無事に班別研修を終えた後は、マンガミュージアムで様々な本に触れたり、中庭で班の仲間と交流したりして楽しいひとときを過ごすことができました。また、その後、新京極へ向かい、修学旅行での最後のお土産を買い、旅館に帰着しました。



3日目は、お世話になったホテルの方々に見送られながら、各自が希望した京都市内体験学習、具体的には、念珠作り、清水焼絵付け、和菓子作り、西陣織、匂い袋作り、家紋手刷りに向かいました。短時間でしたが、体験学習で実際に作品を作ることを通して、日本の伝統文化の本物に触れ、心を豊かにできた時間となりました。その後京都駅へと向かい、帰路に着きました。



待ち望んでいた学校行事も、もはや過去の出来事となりました。お土産と共に楽しい思い出をたくさん持ち帰ってきてくれたようで嬉しく思います。しかし、「**修学**」とある以上、学習の機会として今一度捉え直してみたいのです。**そこで何に出会い、何を学んだのか、初めて触れるものに対する記憶は鮮やかです。同時に「非日常」の中で得られた知識や体験は、貴重なものとして皆さんの中いつまでも残っていくことになるでしょう。**この修学旅行での学びを大きな糧として、「**事後の旅の充実**」つまり残り少ない2年生の生活を充実させ、来年度からは率先垂範する最上級生としての自覚と責任、行動に大いに期待しています。

令和4年度大原中学校 学校関係者評価を受けて（評価結果と改善の具体的方策）

※自己評価の値は、4段階評価（1低～4高）の平均値

項目	学校の自己評価	評価結果 (学校運営協議会)	改善の具体的方策 (学校)
未来に向かう「心」の育成	「心」の育成 「いかに」の過程を大切にする教育活動 生徒指導の機能を生かした授業・指導 いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応の組織的な対応	・学年の初めに立てた各自の目標を振り返る活動の設定や、関係機関・家庭との連携を図り、人間関係を構築する集団づくりを行うなど、「心」の育成に取り組まれている。	・SNS等でのいじめ問題の防止に向けた対応に、組織的・継続的に取り組む。 ・自己肯定感を高める具体的な取り組みとして「自己選択」→「言語化」→「発信」の場を組織的に設定する。
生きて働く「知」の育成	「主体的・対話的で深い学び」による授業の目標化 各教科等を相互に関連付けられた指導	・学力向上に向け、全職員が授業を公開するなど「知」の育成に取り組まれている。	・校内の学力のめあてを「基礎・基本の定着ならびに学ぶよるこびの実感」とし、研究推進部会を主体とする組織的な授業改善を行う。
健康で逞しい「体」の育成	基礎体力向上や運動への意欲づくり 計画的な意育の取り組み	・保健体育科の授業に加え、栄養教諭、家庭科の教諭が協働しての授業など「体」の育成に取り組まれている。	・ラブアース・クリーンアップの機会を生かして防災計画や校区内の危険箇所について、学校と地域が連携して見直しを行う。
地域とともにある学校づくり	地域・保護者との連携と教職員共育 地域行事、ボランティア活動への参加	・校区まちづくり協議会(青少年部会)主催のピアノ演奏会や、サンタレターの取り組みに生徒が積極的に参加するなど、「地域とともにある学校づくり」に貢献していただいている。	・1年生の平和学習、2年生のキャリア教育などの地域の「人・もの・こと」を生かした体験的な活動を通して、「ふるさと」に対する意識の高揚を図る。
ICT活用力の育成	タブレットを活用した学習の実施 タイピング力の目標達成	・授業参観の際、ICTを活用しながら生徒一人一人が生き生きと輝いて授業に取り組んでいる姿が見られた。	・学期ごとに最低1回は情報モラルに関する授業を行う。 ・学校全体で「おはら元気宣言」を進める。
個に応じた学びの充実	「個に応じた学び」の計画的な実施 計画、実践、振り返りをもたせざる	・通級指導教室担当、特別支援教育コーディネーターを中心にスクールカウンセラー等専門者と保護者が連携し、組織的に「個に応じた学びの充実」に取り組まれている。	・コーディネーターを中心とした特別支援教育部会を定期的に行い、交流学級担任やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携し、情報共有を基に実践を行う。
教職員の資質向上の推進	指導上の課題を協議・共有して、日常授業の改善 組織的な人材育成	・年間計画に沿った校内研修に加え、ライフステージに応じた校外研修への参加など「教職員の資質向上」に取り組まれている。	・四分位相のD層をC層へ、C層をB層へ向上させることを意識し、学力向上コーディネーターが中核となり、組織的な授業改善を行う。
小・中・高3年間体制の見通し	指導上の課題を協議・共有して、日常授業の改善 組織的な人材育成	・校区の小中連絡会において情報交換を行うなど、「指導体制の充実」に取り組まれている。	・「家庭学習のすすめ」を小学校にも紹介する。 ・保護者に向けて携帯・スマホ・SNSマナー・アップ講座を実施し、「おはら元気宣言」の浸透を図る。
働き方改革の推進	効率的・協働的な業務運行、時間外勤務の削減 定時退校、年休取得と会議等時間短縮の取組	・週1回のノー部活デーや定時退校日の設定、時間外会議の削減など、「働き方改革」に取り組まれているが、現実には厳しい様子がうかがえる。	・勤務状況や業務改善について、協議する場を設定し、業務分担や業務内容の見直し・削減に取り組んでいるが、現実には厳しい様子がうかがえる。
啓人权・同和教育の推進	人権の観点に立った進められる教育活動 生徒が自ら解決しようとする力の育成	・「人権を考える日」を定期的に設定するなど、学校教育全体で「人権・同和教育の啓発」に取り組まれている。	・情報モラルに関する内容を道徳科のカリキュラムに位置づけ、SNSに係る人権問題等に関して子どもの発達段階に応じた教育を進める。